

牛群検定通信 No119

～ 牛群検定における病気情報 ～

新型コロナウイルス肺炎が猛威をふるっています。皆さんも感染しないように細心の注意を払って下さい。今回は牛群検定における病気情報を再確認してみましょう。

(1) 乳房炎

牛群検定においては体細胞数により乳房炎情報を提供しています。283千個以上の牛は乳房炎が疑われます。検定成績表では283千個以上に△マーク1132千個以上には▲マークを表記し注意を促しています。また、1枚目の中央の移動13カ月情報では、新規の乳房炎罹患頭数や、頭数割合なども表示しています。

乳房炎が多い場合は、感染に留意することが必要です。搾乳手袋の交換、ペーパータオルの使用、確実なディッピングなど多数の予防策を講じなければなりません。また、乳房炎牛は搾乳順番を後にすると言った工夫も必要です。

(2) 繁殖障害

分娩後100日以上経過しても授精の報告が無い場合に、検定成績表に「長期未授精」と表記されます。このような牛は発情が弱く、子宮内膜炎などの繁殖障害となっていることがありますので、個体観察により獣医師に相談する必要があります。授精回数が5回6回と多い牛も繁殖障害と考えられます。

淘汰予定牛として、故意に授精を行わないときは「C：繁殖に供さない」を正しく報告し、繁殖障害の牛と混同しないように気をつけてください。

（３）肢蹄の病気

牛群検定において、肢蹄のスコアを正しく報告していますか？肢蹄スコアは「蹄冠」と「飛節」の２種があります。どちらもスコア３以上は、蹄葉炎や関節周囲炎といった病気が考えられ、やはり獣医師に相談する必要があります。

なお、ＢＣＳも含めた各スコアの見本写真がありますので、ご希望の方は、当団にお知らせください。

（電話 ０３－５６２１－８９２１ toiawase@liaj.or.jp）

（４）除籍コード

検定成績表１枚目の中央下部に年間での除籍理由一覧が表記されています。自身の牛群において、こういった病気が多く発生しているのか、チェックすることができます。「乳房炎」「乳器障害」「繁殖障害」「肢蹄故障」「消化器病」「起立不能」「低能力」「死亡」の区分表示がされています。

（５）その他の病気

当たり前の話ですが、乳牛は病気になれば、必ず乳量を落とします。前月乳量と比較して４０％以上減量したときに表示される大きい黒三角マークは、当該牛に異変が生じていることを意味します。個体観察しましょう。